

＜第 4 回兵庫県海岸保全基本計画変更技術検討部会 議事要旨＞

日時：令和 7 年 8 月 21 日（木）16：10～17：00

場所：ラッセホール 5F ハイビスカス＜WEB 会議併用＞

出席者：委員）森委員（部会長）・内山委員・柴田委員・平山委員

【概要】

気候変動の影響を踏まえた海岸保全基本計画変更にあたり、淡路沿岸において、以下に示した検討内容について説明し、各委員から助言を得た。

- ・淡路沿岸：計画外力及び防護水準の設定について

【議事内容】

＜淡路沿岸＞

●計画外力及び防護水準の設定について

淡路沿岸における気候変動の影響を踏まえた計画外力及び防護水準の設定について説明し、各委員から助言を得た。

【主な意見】

●高潮・波浪推算の再現計算について

【委員】（資料 3 P6～8）ケース D は全体としては再現性が良いと思うが、地点によってはピークの再現に課題があるように思われる。どのように評価したのか改めてご説明いただきたい。

【事務局】淡路沿岸は、播磨・大阪湾・紀伊水道側の 3 つの海域があり、各地点で最適化を図ると計算条件の整合が図れないところがあった。そのため、全体的な整合を図りながら進める方針とした。

【委員】紀伊水道側は若干過小評価になっているように感じる。結果の見方について注意が必要であるため、何かしら注記をしてはどうか。

【事務局】検討する。

【委員】（資料 3 P5）ケース A と C は気象と波浪推算の条件が異なるが、高潮推算の検討条件は同じである。高潮の結果が異なるのはどのような理由か。

【事務局】波浪より求めるラジエーションストレスの影響によると考えている。

●実装方針との比較（妥当性確認）について

【委員】（資料 3 P24, 25）SST 平均とはどのような意味か。

【事務局】6つの異なる海面水温パターン（SST）で推算した結果を平均した推算結果を意味している。

●将来気候の計画外力の設定について

【委員】（資料3 P26）由良の設計高潮位について、資料に数値が掲載されているが、今後、さらに検討した上で再整理していくとの理解でよいか。

【事務局】そのとおりである。砂州の内側と外側とで高潮の特性が異なるため、今後、設計等を考慮し再整理したいと考えている。

【委員】（資料3 P26,28,29）現行は設計沖波と設計高潮位（H.HW.L.）のみが設定されているが、今後は、設計沖波、台風期朔望平均満潮位、潮位偏差が設定され、兵庫県全域で整合した設計条件となるという理解でよいか。

【事務局】そのとおりである。淡路沿岸はこれまで設計高潮位は既往最高潮位を用いていたが、今後は兵庫県全域で統一し、「台風期朔望平均満潮位＋潮位偏差」とする。

●将来気候の津波水位について

【委員】（資料3 P38）エリア⑫については、現設計でも津波水位の方が高い範囲なのか。

【事務局】そのとおり。現設計でも津波水位で海岸保全施設の天端高が決まっている。

【委員】（資料3 P32～38）エリア⑨～⑬がその前のページのどこに対応しているのかわかるように整理して公表すると良い。

【事務局】修正する。

【委員】（資料3 P38）南あわじ市など、すでに津波対策が完了している箇所について、今回の結果を受けて、今後どうするつもりか想定があれば教えていただきたい。

【事務局】現在でも南あわじ市は、L1 津波に対しハードのみで完全に防ぐのが難しくソフト対策を合わせた対応としている。気候変動を踏まえても基本的な方針は変わらないと考えている。

【委員】承知した。気候変動により津波による想定浸水域が少しずつ広がることになるため、今後ますますモニタリングが重要になると考える。